

新武蔵野クリーンセンター（仮称） / 施設デザイン方針（案）

建築デザインの大きなコンセプト、目標

外から見た人も「ここに住みたい」と思えるもの

- ・親しみが持てるデザイン
- ・曲線や、ぬくもりを感じられる視点
- ・ごみ処理施設を隠すのではなく、見せる
- ・緑豊かな環境づくり

建築デザインコンセプト（案）

ごみ処理施設の見える化 + 低炭素社会に向けたモデル施設 = 近未来的デザイン、開放的なデザイン **クールモダン** **ポップ**
 市役所の落ち着いたレンガ調タイルの建築デザイン **ウォームモダン**
 武蔵野プレイスのように、曲線を駆使したデザイン、白を基調とし、塗り壁、石張りで仕上げる **ジャパニーズモダン**
 現在の煙突のデザインは武蔵野市のごみ処理の象徴であり、同様に空や雲に溶け込む建築デザイン **グリーン&ホワイトストライプ**
 屋上緑化、壁面緑化を駆使した緑に覆われた建築デザイン **グリーン**

施設デザインに関するキーワード

1. 敷地周辺の状況に配慮したデザイン

- ・中央通りに面する施設の顔づくり
- ・敷地北側野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンターと連携したデザイン
- ・敷地西側道路に対する顔づくり
- ・市役所と連携したデザイン

施設デザインにおける方針

- ・東側に配置したプラットホームは地下化し、その上部を景観に配慮し緑の土手を創設。土手を登りきったところからの建物の入口は、ガラスなどの材質による明るさを出し、来館しやすい顔をつくる
- ・単調で圧迫感の大きな壁面とならないように、壁面をいくつかに分節したデザインとするとともに、野球場が見えるデッキ、イベント広場から通り抜ける遊歩道を創設し、野球場、テニスコートとクリーンセンターの間を緑の遊歩道を設置する。
- ・市役所から見て親しみの持てるデザイン、市役所とクリーンセンターとの歩道の連携
- ・エコプラザ（仮称）と緑町コミセンとをつなぐ快適な遊歩道を整備する

2. エコセンターにふさわしい煙突のデザイン

- ・既存煙突の利用を基本とし景観にも十分配慮したデザイン

- ・27年間、景色の一つとして慣れ親しまれた既存煙突のデザインもしくは同様に空や雲に溶け込む煙突デザイン

3. 開放的で人を施設に引き込むデザイン

- ・開放的な施設の表情づくりをおこなう。
- ・人を施設に誘うような施設のインターフェイスのあり方に配慮する。

- ・見学者ルートは自由に見学ができ、ごみ処理の仕組みが2階のフロアを一巡するだけで見ることができ、合わせて「武蔵野市のごみの歴史」が学ぶことができる。また、子どもたちが描いた環境ポスターなどを展示できるギャラリーも併設する。
- ・全ての人を使いやすい施設として、ユニバーサルデザインに配慮する。

4. 施設の全体性・連続性、イベント広場との連携

- ・施設内で一体的に連続感のある施設構成とする。
- ・敷地中央にあるイベント広場（仮称）との有機的な連携をもったデザインとする。

- ・エコセンター（仮称）とエコプラザ（仮称）をつなぐイベント広場は重要な位置づけとなり、市民が自由に入ることができ、憩いの場となる。また、イベント広場を介して、エコセンター（仮称）とエコプラザ（仮称）の活動が間近に見ることができ、ごみ処理から環境学習へ導く。そのため、環境に関するイベントが定期的に行うことのできるスペースでもある。
- ・東側の緑の土手からエコセンター（仮称）自由見学コースを抜け、空中デッキを渡り、屋上庭園を通り、階段デッキを降りると、イベント広場につながる。そして、エコプラザ（仮称）へ進むことができる。
- ・イベント広場から北側の野球場、テニスコート方面へ遊歩道で連絡し、エリア全体が散策できる。

配置図（ユニバーサルデザイン、“見る・見られる”関係づくり）

